

# 骨髓バンクセミナー

2/7(土)

13:00~16:30

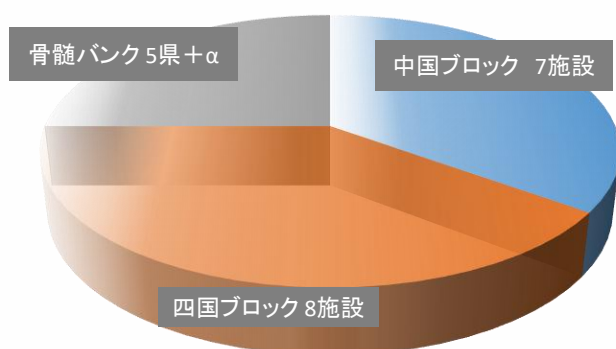
開催報告

開催方法：会場開催・ドナー安全講習のみweb配信  
参加者：40名 ドナー安全講習：62名  
参加施設：15施設+骨髓バンク  
ドナー安全講習：27施設+骨髓バンク

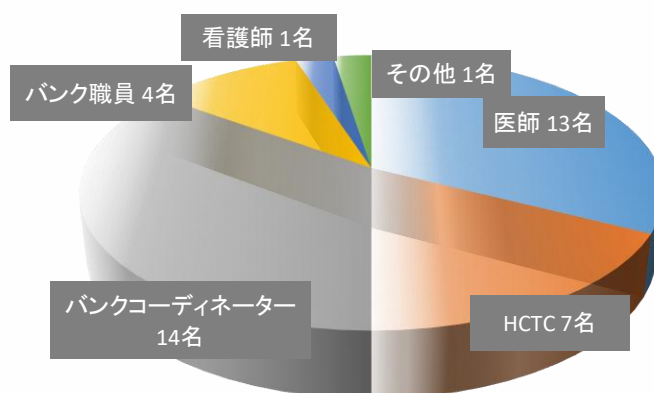
会場には中四国ブロックを中心に多くの皆様にご参加いただき、ドナー安全講習にもブロックを越えて多数の方々にご参加いただきました。

## 【会場参加】

### 参加施設

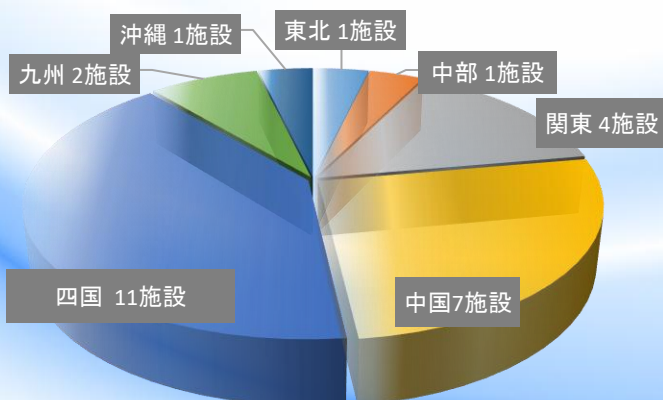


### 参加職種

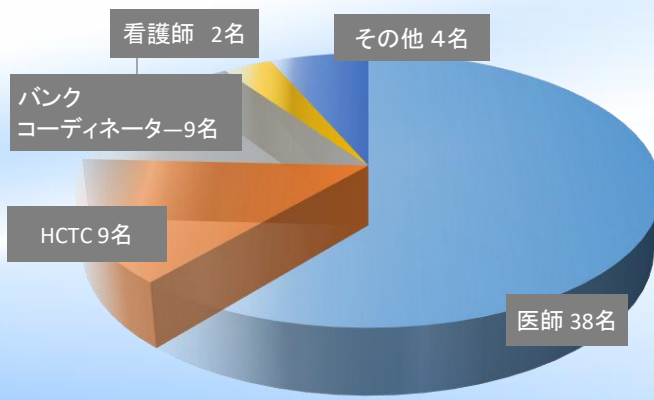


## 【ドナー安全講習(会場+web)】

### 参加施設



### 参加職種



## 骨髄バンクからの報告

公財)日本骨髄バンク 理事長 岡本真一郎先生より、「日本骨髄バンクの現状と課題」についてご報告をいただきました。現在、骨髄バンクでは「若手ドナーの拡充」「ドナー応諾率の向上」「最適なタイミングで造血幹細胞を提供できるコーディネート体制の実現」に重点的に取り組まれています。

具体的には、スワブを活用した若年層ドナーのリクルートや、大学生が骨髄バンクに関わる仕組みづくりの検討、新規ドナー登録の流れの変更(動画視聴→オンライン登録→スワブによる検体採取→郵送)などについてご紹介いただきました。

続いて、中四国事務局の谷沢魅帆子先生より、中四国ブロックにおけるコーディネート状況のご報告ならびに、書類の電子化や確認検査のリモート化の運用状況についてご説明いただきました。

また、ドナー安全委員会委員 名和由一郎より、令和7年度のドナー関連事例(有害事象報告、前処置開始後の採取延期事例 他)および安全情報について報告がありました。

骨髄バンクの現状と課題、そして新たなコーディネート体制の導入について共有することができ、今後の移植医療の推進に向けて意義深い機会となりました。

## リモート確認検査について

リモート確認検査は、2025年4月から本格導入されていますが、中四国地区では、対応可能施設がまだ限定的であることから、導入拡大を目的として4名の職種の方にご登壇いただきました。

### ● リモート確認検査～地区事務局からのご報告～

公財)日本骨髄バンク 中四国事務局 西本 佳子先生

リモート確認検査の流れと概要についてご説明いただきました。動画や小冊子を活用した面談により、ドナーの利便性向上や応諾率の向上、面談時間の短縮が期待されることが示されました。また、所要時間の短縮により来院可能日程が広がるなどのメリットも紹介されました。一方で、施設スタッフの負担への配慮や、ドナーの背景・都合に応じた面談方法の調整が必要であるといった課題も共有され、円滑な運用に向けた検討の重要性が示されました。

### ● リモート確認検査においてコーディネーターの立場からの気づき

骨髄バンクコーディネーター 河野 順子先生

リモート確認検査と対面確認検査の調整基準、電話面談の進め方、ドナー情報の収集やコミュニケーション上の課題について、実際の調整事例を踏まえた報告がありました。電話でドナーの迷いや反応をどのようにくみ取るかなど、現場で向き合う立場ならではの率直な気づきが共有されました。リモート確認検査の利便性と安全性を両立するための工夫と課題が示され、日々の実務を見つめ直す機会となりました。

## ● リモート確認検査の実際～当院での経験と安全な運用～

岡山大学病院 輸血・細胞療法部 鴨井 千尋先生

従来の確認検査との違いを踏まえ、リモート確認検査の流れやメリット、課題について実践経験をもとにご報告いただきました。医師の拘束時間短縮、ドナーの滞在時間短縮などの利点が表示される一方、適格性判断時の相談体制や医師単独対応に伴うリスク管理といった課題も提示されました。症例を通して安全な運用のための工夫が共有されました。

## ● リモート確認検査のかかわり～倉敷中央病院の場合～

公財)大原記念倉敷中央病院 HCTC 清水 雅代先生

確認検査の依頼から日程調整、来院前準備、確認検査当日の対応まで、実際の流れに沿って具体的に紹介されました。調整医師との連絡や院内スタッフとの連携、当日の本人確認や採血後の報告手順など、現場での実務が共有されました。

日程調整の柔軟性や効率化といった利点がある一方で、職員の協力体制の確保やトラブル対応、バンクコーディネーターとのコミュニケーションの在り方など、現場ならではの課題も示されました。リモート確認検査を支える院内体制の重要性を改めて考える機会となりました。

造血幹細胞移植推進拠点病院  
愛媛県立中央病院